

TAKE FREE

ご自由にお取りください

INFORMATION FROM POPOLA KASUKABE

# POPOLA

## ぽぽらだより

2022.3

特集号

Let's try collaboration!!

KYODO VOL. 03

発行元 春日部市市民活動センター  
(指定管理者：㈱コンベンションリンクージ)

まちのことを、はじめる場所。

「ぽぽらだより」は、春日部市市民活動センター（ぽぽら春日部）が発行するまちづくりや市民活動を広めるためのフリーペーパー（広報誌）です。ぽぽら春日部はまちの課題に取り組み、市民の暮らしに新たな価値を生む公益的な活動を応援する施設です。地域のための活動をしている人、始めたい人がつながっていく場所でもあります。わたしたちが暮らしている、まちのことをはじめませんか。

(写真：左からタمامシの会の久保さん、居酒屋「美月」の権丈さん、タمامシの会の佐藤さん)



協働って何さ？

社会資源をつなぐ  
地域の架け橋に

2000年に介護保険法が施行されて以降、介護保険制度は高齢者の暮らしや地域の福祉を支えるうえで大変重要な役割を果たしてきました。高齢化が一段と進むなか、同制度も介護現場の課題やニーズにあわせてこれまで6度も改定されています。しかしながら、システム（制度）として支えられることが増えた一方で、福祉や医療にも密接に関わる「孤独」や「孤立」といった新たな社会問題が注目を集めるようにもなりました。

新型コロナウイルスの感染拡大の長期化が懸念されるなか、春日部でも「協働」によって高齢者の孤独や孤立を解消するための取り組みが始まっています。

(写真：タマムシカフェの開催風景)



(写真上：『ケアニン～あなたでよかった～』上映会の風景)  
(写真下：居酒屋「美月」での1コマ)



## 『このままだと ご近所の支え合いが なくなってしまう』

市内で介護職につく久保美奈子さんと佐藤洋志さんの二人が「タマムシの会」を立ち上げたのは、介護の舞台を描いた映画『ケアニン～あなたでよかった～』の上映会を企画したことがきっかけだ。当時二人は介護保険の制度が充実してきた反面、「地域のつながりはむしろ薄くなってきているんじゃないか？」と疑問を抱いており、上映会後に映画のモデルとなった「あおいけあ（藤沢市）」や「はっぴーの家ろっけん（神戸市）」を視察するなかで、コミュニティの大切さを学んでいったという。

コミュニティづくりをしたいと場所を探し始めたときに、豊春にある居酒屋「美

月」の店主で元同僚の権丈洋子さんが「お店の空き時間を使ってやってみたら？」と二人に申し出てくれたそうだ。こうして誰でも来られて困りごとを話せる場を目指し「タマムシカフェ」がスタートした。地域の中で孤立しがちな人たちとつながるきっかけとなっている。

毎月開催していた活動はコロナ禍で自粛することもあるが、現在、高齢者向けのシェアハウス「結」※を運営する舟橋裕二さんとともに新たなセミナーイベントも計画中だ。佐藤さんは「僕たちにシェアハウスはできないけれど、高齢者の孤立防止という点でコンセプトが近い。同じ目的を持つ人を紹介できる場を持ちたかった」と話す。共通の思いや価値観があるからこそ、それぞれの立場から協働することができる。

介護保険ではさまざまなサービスが制度化されている一方で、介護保険では届けられないものもたくさんある。「そん

なときに困っている人を支えていけるのは周囲の社会資源であり、地域の活動だ」と二人は感じている。元々ご近所同士で声をかけて支え合っていたものを介護保険サービスが代替することで、逆に失ってしまう現場も見てきた。地域で支え合う社会に一步でも近づくための取り組みが協働によって始まっている。

(写真：シェアハウス結でのイベントの様子)



※高齢者向けシェアハウス「結」は、高齢者の賃貸問題と地域の空き家問題の双方の解決を目指す社会的事業。南桜井駅近くの空き家をリノベーションし、高齢者の孤立化を防ぐために地元の住民を招いたイベント等も実施している。

### 協働のポイント

“共通”の目的を“共有”すること  
お互いできることで支え合う

#### 春日部市市民活動センター（ぼぼら春日部）

年中無休（年末年始を除く） 9:00～21:30

TEL 048-731-3550 FAX 048-734-1605

〒344-8578 埼玉県春日部市南 1-1-7 ふれあいキューブ 4階

<http://kasukabe.genki365.net/>

<https://www.facebook.com/popolakasukabe/>

